



宮脇機械プラント 岡本 淳 社長

INTERVIEW

聞き手：松川裕希

PROFILE

おかもと・あつし
1984年大阪経済大学経済学部を卒業。同年宮脇機械プラントに入社し、長く営業畑を歩む。2015年取締役、17年常務、18年4月から現職。趣味はカメラや映画鑑賞。兵庫県出身、1961年生まれの56歳。

次代を育てるのが使命

宮脇機械プラントは工作機械や産業用ロボットの販売を中心に、システムインテグレーター（SI）としての機能も持つ技術系商社。日本工作機械販売協会（日工販）の副会長も務めた前社長の宮脇隆一郎会長から、創業52年目にして初めて社長が交代した。2代目社長に就任した岡本淳社長は新卒で同社に入社し、30年以上にわたり営業畑を歩んだ。宮脇会長の社員を大事にする姿勢を伝統として守り「何かをやめなければ新しいことを始められない」と話し、新しい事業や商材などを通じて徐々に岡本体制を打ち出す考えだ。

——就任を打診された時の率直な感想は？

就任を打診されたのは昨年1月です。入社して35年になりますが、今でも社内には先輩が多く自分が就任を打診されるとは考えてもいませんでした。宮脇会長は83歳でもまだまだ元気ですが「元気なうちに引き継ぎたい」とのことでした。私の入社を世話してくれたのも宮脇会長で、それだけに感慨深いです。会長に背中を見てもらいながら、お客さまにも会長にも「岡本体制で頑張っているな」と感じてもらえるよう頑張ります。

——岡本社長から見た宮脇会長は？

52年前に裸一貫で会社を起こした人です。今でこそ多くの大手企業と取引がありますが、取引先の開拓は並大抵の苦労ではなかったはず。厳しく指

導することもあります。社員への思いは家族同様です。新入社員の採用を決めたら、会長自ら新入社員の両親にあいさつに出向くのが習慣でした。そんな宮脇会長の元で働く影響か、社員の身内に不幸があった場合は葬儀の受け付けを率先して買って出るなど、社員同士の互助意識も強いです。日工販の副会長など団体の要職に推されたのも、長い間業界に貢献したことと人柄ゆえではないでしょうか。

——どのような方針で経営に取り組みますか。

宮脇会長が築いてきた基礎を維持するのが基本路線になります。ただし、何かをやめなければ新しいことを始めるのは難しいのが現実です。新しいことを始めるためには、常識にとらわれず、常識だと思っていることを常に見直して、続けることと新しく変えることをうまく取捨選択することが必要だと思います。

——新しいこととは。

新しい商材、あるいは協業先の開拓が一つ。近くトルコに本社を置くパイカルのプレス機の取り扱いを始めました。パイカルは最大1000tのプレスプレ

キをラインアップしており、機械の価格でも魅力のあるメーカーです。国内外を問わず力のあるメーカーや製品を新商材として開拓したい。もう一つは新たなサービスの事業化です。まだ具体化できていませんが、例えば、X線CTスキャナーを使った非破壊検査の受託サービスをやってみたいですね。

——長く歩まれた営業職での一番のやりがいは。

1996年から2000年ごろにかけて、三菱自動車が開発したガソリン直噴エンジンの製造ライン立ち上げに携わったことです。1995年には阪神・淡路大震災があり、立ち会いに足を運ぶのが大変でした。

——今後の課題は？

マンパワー不足で、引き合いに対して100%お応えできていないのが今の課題です。特に技術を必要とするSI案件の対応が難しい。産業用ロボットのプログラミングや自動化システムの構築などは、金属加工業以外にも食品や医療機器の分野から問い合わせがあるほどです。大学や高等専門学校との連携などを通じて技術職の増員に努めています。

“お客さまあつての商社”、
“社員あつての会社”を両立

が、なかなか採用にはつながっていません。営業マンは採用後の育成も課題です。お客さまにとっては会社の顔であり代弁者ですから、販売員としてのスキルだけでなく人間力が大事。お客さまと直接顔を合わせてコミュニケーションを重ねるのも重要ですが、そういった“生もの”と、記録や歴史といった“干物”の両方の知見が必要です。

——今後の経営目標は。

わが社では、日工会が発表する内需の1%を、おおよそその目標に設定しています。昨年度は6900億円近くまで伸びましたが、わが社の売り上げは約65億円の見込み。さらに伸ばしていければと考えています。その鍵として期待するのが、今年度の上期中に正式にオープンするショールームです。3000万円は

ど投資し、双腕ロボットや7軸ロボットなどを展示します。うまく活用して技術力をアピールしたいですね。SI案件の評判が他の受注にもつながっています。

——岡本社長にとっての「社長の使命」とは？

次の経営者を育てることです。今、20代の社員が8人いますが、彼らがこれから10年、15年先にどう成長していくかで次代の会社が左右されるでしょう。「自分はこうしたい」とのビジョンを持ってもらいたいと考えています。そのためにも、長期的な勉強や情報収集など自己研さんを通じて、物事を判断する力を磨いてもらいたいですね。